

特別支援教育通信

特別支援教育委員会 No.6

平成16年 2月16日

寒河江市立西根小学校

第2回 巡回相談 実施報告

1 日 時 平成16年 2月 6日(水) 9:30~14:00

2 巡回指導員 羽陽学園短期大学障害児保育センター

講師 千 田 久 子 先生

3 対象の児童 4年男子 S児

4 実施内容

1) 児童観察(2校時)

■スキー教室のお礼の手紙と作文の授業を観察してもらった。

なかなか書けなくて、担任に「楽しかったでしょ。」と声を掛けられ、「楽しくない。」等と返事をしながらも、タイトルや名前、短い文を書いていた。

2) お話①(3校時)

■行動観察と自閉症児(アスペルガー症候群)の特徴から

○ 先生と一緒にだと安心。困ったときは先生に言えば助けてくれる。と言う心の安定が大事。

——→ S児との信頼関係、温かい関係が更に深まれば指導の流れがよくなる。

○ 自閉症児は一般にこだわりが強く、やると決まっていることをせずには気がすまないという特徴がある。学習の場面で、鉛筆・下敷き・教科書・ノートを出すのだとなると必ず出し、出さなくて良いとか別のものを出すなどの変更が起きるとパニックになったりする。

——→ S児の場合、学習に向かう準備態勢そのものが出来ていない。※1学習の準備物を揃えることや学習に入る心構えなどの基本的な態度が作られていない。また、授業の初めと終わりの挨拶が区切りになってはいるが、課題がいつも中途半端になっており、完結した学習や完結した生活を経験できていない。※2

○ 普通、友達との喧嘩とは、お互いが対等で同じような立場や状況下で起きる。

——→ S児の場合、喧嘩ではなく一方的なトラブル。一方的な思い込みで相手に向かっていくので、相手側は突然のことを理解できない。「どうして!？」

○ 家で格闘型や攻撃型のゲームで遊んでいる場合、友達とトラブルになって叩いたりけったりする時、それがゲームの再現状態になり、相手が生身の人間ではなくなってしまう。

——→ トラブルになり、暴力的に興奮しているときは、S児を力で抑えるよりも相手を逃がして、姿が見えないようにしてやるのが良い。必ず相手になった児童をフォローしてあげる

○ 「フラッシュバック」とブツブツつぶやくのは、アスペルガーの特徴。

——→ 穏やかなときのS児の様子で、外を見てニコニコしたり、ぼんやりしながらもニタニタしている時などは、楽しかったことやアニメなどを思い出していて、授業中「い〜や〜だ〜」などつぶやいているのは、いやなことを思い出して口に出しているのであろう。

○ 4年生の後半は思春期前期に入り、心の面でますます難しくなってくる。高学年になると、否定されている自分、拒まれている自分が見えてきて、過剰反応が多くなってくる。同年代の子どもたちと仲良くなりたいと思う気持ちと同じくらい反発心が出てくる。

——→ S児の場合、アスペルガーの症状に加え、2次的に派生した情緒的な問題が大きいため、指導に困難さがある。また、幼児期に身につけるべき行動、社会

的スキルを10歳になる まで身につけられずにきた事も、指導の困難さの大きな原因のひとつである。

3) 話し合い①(3校時~4校時)

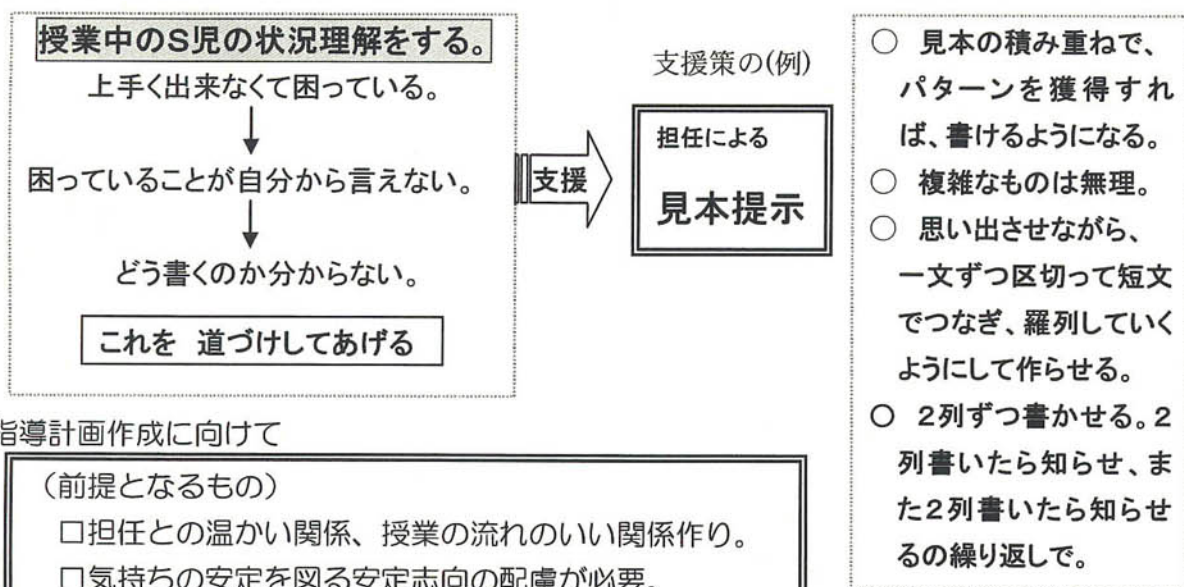
■今日の授業(作文)から

○ 普段の学習

- ・ 同時に複数の指示は無理である。
- ・ 漢字は書けるし使える。(カタログ的記憶メモリー 記号のようにして覚える。)
- ・ 計算もできる。テストやプリント学習はできるが、何もないものに書くのはできない。

○ 作文の授業

- ・ やる気がないわけではない。作文は、とても苦手な勉強で1対1でないと出来ない。
- ・ 自分の思いを伝えることが出来ない。



■指導計画作成に向けて

(前提となるもの)

- 担任との温かい関係、授業の流れのいい関係作り。
- 気持ちの安定を図る安定志向の配慮が必要。

S児の学習環境への適応を目指し

その1/学習の準備態勢を整える(育てる)支援にあたって

- ・ 学校生活や学習の準備などを主体的にするための支援である。

○ S児の学習の準備態勢を育てる支援 ※1

- ・ 学習の内容や教科、日程の変更等により、準備物等に多少の違いが出てくる。そこで、混乱が生じたり、スムーズに行動に移せなかったりもするので、日程や準備物を毎日確認させることが大切。



支援 → **日程をきちんと確認させる。**

- * S児のためにするが、学級の全員のためにすることにもなる。
 - * 自分のしたものは見る。
 - * 役割を与えることで、S児の学級での位置づけが変わるかもしれない。
- “存在の意味”

- スケジュールを確認させる係にして、1日の予定をカードで黒板にはらせる。
- 準備物や持ち物などの変更や追加もカードで提示させる。

今日の予定

1時間目 **国語**

2時間目 **音楽**

3時間目 **体育**

その2／学習活動への支援にあたって

- ・ 授業に入れない時、困っている状況は何なのかを実態から見立てる。困っている状況を場面と照らして理解する。
- ・ 見立てた状況から、支援策を考える。何をどうするか。
- ・ 何が得意で、何が苦手かを理解し、支援の仕方に活かす（利用する）ことである。
- ・ 苦手さを理解した形での支援策を、繰り返してパターン化して。

○ S児の学習活動への支援 ※2

- ・ 授業の主課題が尻切れトンボにならないようにしなくてはならない。課題を完結させる経験を積む。
- ・ 主課題は早めにさせる方がよい。能力があるのに発揮できないでいるのだから、主課題ができたなら、好きなことをさせて息抜きをさせる。
 - いちいち指示されると邪魔された気になり、短気を起こしてしまう。
- ・ 主課題をさせるにあたって、「～時までね。『書いた。』って持ってきてね。」「書いたら手をあげてね。すぐ来るから。」というような担任とのやり取りのルールを試す。
 - 受け入れることができるとどう変化するか。

S児の友達関係作りを目指し（生活面）

- ・ いい関係、温かいつながりを作っていく。
- ・ S児のつまづきを考えて支援する。
- ・ 支援は、大きなことより些細なことを考えて試していく。
- ・ 人間関係は複雑なものは無理。



○ S児の人間関係作りへの支援

- ・ 同年代の子と親しくしたいと思うようになる時期である。しかし、関わり方は単純で、遊び方も幼い。単純な関わり方を繰り返し行っていくと心が寄ってくる。
 - 遊びは年下の子や大人を好む。自分流を通すことが出来ないと反発する。友達と顔を付き合わせて顔真似をしだり、追いかけておもしろがったりと友達とふざけっこをして遊んでいた。喧嘩にはならなかった。
- ・ はさみへのこだわりがあり、授業中も何かしら紙を切っている。はさみにこだわり、やたらに紙を切ることをダメダメと規制しないで、健康的な方向に利用できるように支援する。
 - 止めさせようとすると、怒る。パニックになる。



主課題が終わったら
きざむ物を与え、
はさみで切る行為を

正当化する

- 切ったものを集めてとっておき、図工などの他の授業に利用する。また、自分の遊びに使う。

☆ ビニール袋に入れてボールのようにして遊ぶのは、ボール遊びの苦手なS児にとって、弾みが少なくキャッチしやすく扱いやすい。
☆ 危険がなく、補助員や友達との遊びに広げることができ、友達との関係作りに使える。

■ その他

- セロテープをあちこちにはったり、自分の手にはったりしている。手の甲の白いテープは、母親がはってかれている。
 - テープにこだわりがあり、テープを手にはることが安定剤になっている。取り上げるとパニックになる。

4) お話②(昼食をとりながら 12:10~ 1:10)

■保護者との面談のようすから



○ お父さんとお母さんの存在。

——▶ お父さんが厳しく、お母さんが余り神経質になっていないことが、家庭の中ではバランスよく働いているようだ。権威のある存在(父親)があることは大切なことである。

○ S児を取り巻く環境や本人の成長にしたがって、父親としてS児の実態や障害についてきちんとした理解と対応が必要になってくる。

——▶ 父親としての権威を持ち頼れる存在としての支援がどのように出来るかがポイントである。社会的規範を守らせなくてはいけないという考えは大切だが、方法論的に正しいやり方でなければならない。療育センターの先生と直接会い、S児の実態や障害について、また、父親としての考えなどを出し合って話し合う必要があるのではないか。

○ 社会的スキルの訓練

——▶ お母さんが家で出来ないか。社会的スキルの訓練プログラムやカードがある。療育センターの先生に聞いてやれないか相談してみるのもよいのでは。

5) 話し合い②(昼休み~掃除 12:20~14:00)

■これから学校が出来ること(側面的な支援)

○ 個別の取り出しによる支援を実践するとしたら

- ・ 心が開放されるような指導である必要がある。
- ・ 1時間のうちに細切れに、何個も課題に取り組ませることになる。
- ・ 学習の準備態勢・スキル・態度・参加の仕方などの支援になる。
- ・ 同じ時間・曜日・同じ場所で行うこと。
- ・ 小さな部屋で、二人での学習。先生との一人勉強という形で。



○ S児への見立ての共通性が欠かせない。

- ・ 細々とした、実際の場面での教師同士の共通理解が必要である。同一步調で対応することが重要になる

○リアルな場面での社会的スキルの訓練・プライドの活用

- ・ ボーイスカウト活動への参加はどうか。あいまいなものがなく、行動がパターン化され繰り返しをすることでスキルを獲得できる。行動が分かりやすい。
- ・ 役割意識、集団の中で、自我水準を上げることができる。

○ クラスの他の児童との関係

- ・ S児の存在による他の児童への影響はどうか。
- ・ 他の児童の存在によるS児への影響はどうか。

——▶ S児の存在によって集団が育っている。集団が成長することでS児への理解が深まっていけばよい。

この度の指導をよりどころにして、S児の指導計画の作成を試みる。しかし、年度末の現段階で3学期中の短期目標の設定では余りにも短期過ぎ、個別の支援に取り組んだ、という段階までであろう。小学校最終学年の6年生まであと1年ある。その1年で目に見える支援と何かしらの成果が出るように努力したい。

牧野